

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	立田 和久	学校名	市立札幌清田高等学校
教科（科目）・領域	国際的人権	対象学年（人数）	1年 8組（39名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年 2月4日（5、6時限）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：SDG s とジェンダー問題					
2. 実施する教科・領域：	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：					
<ul style="list-style-type: none"> 国際協力における「SDG s」及び「文化相対主義」の概念の大切さを理解できる。 「人権擁護」と「文化相対主義」は場合により対立する概念であることを踏まえ、「ジェンダー問題」の解決に何が必要か考えることができる。 中央アジアの古くから風習である誘拐婚を事例に、「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」の対立について理解し、SDG s の達成の道程には何か大切かを考えることができる。 「答えなき問い」に対して向きあい、より良い未来の在り方について思考できる。 					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	SDG s の目標及び、文化相対主義の概念を理解できる。			
	②思考力、判断力、表現力等	SDG s 及び、文化相対主義の必要性について考えることができる。また、SDG s 及び、文化相対主義とジェンダー問題の結びつきについて考え、発表することができる。			
	③学びに向かう力、人間性等	キルギスの誘拐婚を事例に、「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」のジレンマを思考し、ジェンダー問題の解決に向けて何が大切かを探求することができる。			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>SDGs を学んでいく中で、依然として多くの国々でその目標を達成できていない状況がみえてくる。SDGs という本来世界共通の達成すべきものと考えられる価値観が、他方で文化相対主義と衝突する中で、いかに課題克服に向けて努力をし、よりよい未来を創造することができるかを考察させたいと思い設定した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>地域社会の伝統や実情を無視して欧米社会の価値観を一方向的に押し付けることは、その地域の理解を得ることはできない。それ故、国際社会では多文化相対主義の考え方が大切になる。一方で、未だに多くの国々において伝統という名のもとに、個の人権が侵害されている。キルギス共和国の誘拐婚という伝統を事例に、多文化相対主義と人権問題のジレンマを理解し、SDGs の目標の一つである「ジェンダー平等」の達成に向けて前進するためには何ができるのかを思考することができる。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>将来世界を舞台に活躍することを希望する生徒が集まるグローバルコースを対象とするため、国際理解教育に対する関心は非常に高い。また、明るく積極的に発言する生徒が多く、普段からの生徒参加型授業にも慣れている。ただ、1年生ということもあり、多くの生徒は時事的・歴史的知識が十分とは言えず、問題の背景となる知識をある程度理解させてから活動に取り組みせる配慮が必要である。</p> <p>【指導観】</p> <p>今回の授業を实践する学校設定科目「国際的人権」を踏まえ、全ての生徒が二年次においてより複雑な国際問題について考察する「国際協力」の授業を受けることになる。また、生徒たちの多くは高校卒業後に進学をし、国際社会を舞台に活躍することを望んでいる。そのため、生徒たちには今後一層、国際理解及び国際協力を行っていく上で、複眼的視点に立つことの大切さを理解することが必要になる。今回の単元が、複雑な国際的諸問題を理解するうえでの導入を担うものだと考える。</p>
---	---

7. 単元計画 (全5時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース 活用はここに記載
1	<ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な開発目標(SDGs)」について理解する。 文化相対主義について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の 17 の目標と達成状況について確認する。 グループで SDGs のカードを、5 つにジャンル分けする。 なぜ SDGs の目標が多くの国で達成できていないのか、グループで考察する。 文化相対主義の概念を確認し、その概念が大切となった歴史的経緯を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント ワークシート SDGs カード
2	<ul style="list-style-type: none"> キルギスの概要を知る。 キルギス独自の文化・伝統を知る。 キルギス(中央アジア)特有の誘拐婚は、我々が認識する「誘拐」の概念 	<ul style="list-style-type: none"> ○キルギスの基本情報について紹介する。 地理的情報(場所、気候、産業等)、歴史的情報 食文化、遊牧民的風土(部族的結び付き)、結婚制度(誘拐婚、キルギス社会の結婚圧力)、 誘拐婚は法律では禁止されているが、実際はキルギス社会の伝統であるため、警察が取り締まりをしていないことを理解する。 地方では 40 代以上の女性の半数以上が誘拐婚によって結婚している現状を理解する。 キルギスでは、「結婚して子どもを産み育て 	<ul style="list-style-type: none"> 地図 写真 動画 パワーポイント ワークシート

	から少しかけ離れていることを理解する。	る」ことが至上の価値とされており、結婚の形態よりも、結婚後に子孫を残せることが大切な風土があることを理解する。 ・誘拐婚とキルギスの若者の経済的事情に関連があることを理解する。	
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・キルギスの誘拐婚問題は、「持続可能な開発目標(SDGs)」のどのアイコンと関わるのか理解する。 ・誘拐婚というキルギスの伝統が複雑なキルギス社会(中央アジア社会)の中から連綿と続いてきた制度であることを体験的に理解する。 ・「人権擁護」と「文化相対主義(伝統・文化)」のジレンマを理解し、誘拐婚にともなう問題を解決する上で何が大切かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのキーワードを復習する。 ・誘拐婚の問題は、SDGsの17の目標のどれにあたるのかを、グループで考える。 <p>ロールプレイ</p> <p>「誘拐婚の厳罰化についての会議」</p> <p>1) 課題説明 政府は誘拐婚の厳罰化について検討することにした。国際人権委員会や多くのキルギスの若い女性たちは賛成する中、文化人類学者やキルギスの大家族の長たちはそれに対して反対意見を述べている。そこで、政府は国民と有識者から広く意見を聴取すべく、会議を開催することにした。</p> <p>2) 作戦会議 カードが配布された同じ役柄で会議のシミュレーションをする。</p> <p>3) 本会議 政府の司会の元、会議を進行する。</p> <p>4) 全体共有 結論を書いたホワイトボードを発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誘拐婚の厳罰化についての会議」を通して、明らかになった課題を整理し、解決方法について考える。 ・本時の振り返りをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・ワークシート ・ロールプレイカード ・ホワイトボード
5	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国のジェンダー格差の現状を理解する。 ・なぜ、北欧諸国はジェンダー格差が小さく、日本は格差が大きい(先進国最低)を考える。 ・世界経済フォーラムの「ジェンダー・ギャップ指数」の計算方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年のジェンダー・ギャップ指数において北欧諸国が上位にあり、153か国中キルギスが72位、日本が121位(過去最低)であったことを理解する。 ・グループで付箋を使い、日本の男女格差が大きい理由と北欧諸国の格差が小さい理由をまとめる。 ・「ジェンダー間の経済的参加度および機会」「教育達成度」「健康と生存」「政治的エンパワーメント」の各分野において「ジェンダー・ギャップ指数」が算出されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補足プリント (Global Gender Gap Report 2020) ・パワーポイント ・付箋(KJ法)

8. 本時の展開（3、4時間目）			
本時のねらい：キルギスの誘拐婚を事例に、「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」のジレンマを理解し、ジェンダー問題の克服において何ができるかを考える。			
※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1. 前時の学習内容を確認する。 2. 本時の学習目標を知る。	○スライドを用い、前時の学習内容を確認する。	・パワーポイント ・ワークシート
展開 (70分)	「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」のジレンマを理解し、誘拐婚にともなう問題の克服において何ができるかを考える。		
	3. キルギスの誘拐問題の解決に向けた取り組みについて考える。 【ロールプレイ】 「誘拐婚の厳罰化についての会議」 1) 課題説明	<p>キルギス国内で誘拐犯によって女学生が殺されてしまった事件をきっかけに、政府は誘拐婚の厳罰化について検討することにした（※現在のキルギスでは誘拐婚に対する刑罰は羊の窃盗と同様である）。国際人権委員会や多くのキルギスの若い女性たちは個の尊厳やジェンダー平等の観点から厳罰化への賛成の声が上がった。一方で、文化人類学者やキルギスの大家族の長たちは、キルギスの長い伝統の中で培われた伝統を法律の厳格化で規制する必要はないと、反対意見を述べている。そこで、政府は国民と有識者から広く意見を聴取すべく、会議を開催することにした。</p>	
	2) 作戦会議① 同じ役柄で会議のシュミレーションをする。		
【政府】 国民世論に基づいた法整備をするために、各方面の人々から意見を募り、厳罰化への検討を行う。	【国際人権委員会】 誘拐婚はジェンダー不平等の最たる例で、女性の権利を侵害するため、厳罰化すべき。	【キルギスの女学生】 恋愛婚で結婚を望む。また、結婚しない自由もある。そのため、一方的に教育の機会も奪われ結婚を強制される誘拐婚には反対するし、厳罰化には賛成。	
【エジェ(女性年配者)】 当初は誘拐婚には反対であったが、今は必ずしも反対ではない。未婚の息子のことを考えると、誘拐婚の厳罰化には賛成できない。	【文化人類学者】 誘拐婚はキルギスの社会の実情に合う形で維持させてきた文化である。したがって、欧米の価値観をもって一方的に否定できないため、厳罰化には反対である。	【家族の長】 経済的理由から、誘拐婚でなければ結婚できない国民もいる。子孫を多く残すことこそが幸せなのだから、誘拐婚は致し方なく、厳罰化には反対である。	
	3) 本会議	○会議の様子を踏ま	

<p>まとめ (20分)</p>	<p>政府司会の元、ロールプレイカードの情報を交換しながら会議を進行する。</p> <p>4)作戦会議② 本会議の途中に同じ役柄の人々で集まり、助言し合う。その後、再び本会議へ。</p> <p>5)議論 役から離れ、課題の整理と「人権擁護」と「文化相対主義(伝統・文化)」のジレンマを踏まえ、誘拐婚にもなう問題を解決する上で何が大切かホワイトボードにまとめる。</p> <p>5)全体共有 グループの代表者が発表する。</p> <p>4. 単元のまとめと振り返り ・ワークシートをまとめる</p>	<p>えながら、適切に声掛けを行う。</p> <p>○作戦会議後にロールプレイの感想を聞く。</p> <p>○議論の前に、スライドを用い、カードの内容を整理し、会議の論点を整理する。</p>	<p>・ホワイトボード</p>
<p>〈まとめの視点〉</p> <p>国際理解をするうえで「人権擁護」と「文化相対主義(伝統・文化の尊重)」は大事なキーワードであるが、それらにはジレンマがあることが理解できる。また、そのジレンマの克服に向け考え、多角的に国際問題に向かうための態度を養うことができる。</p>			
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権擁護」と「文化相対主義(伝統・文化)」の概念にジレンマがあることを理解できる。 (取り組みの観察/ホワイトボード) ・「人権擁護」と「文化相対主義(伝統・文化)」の概念のジレンマを乗り越えて、SDGsの人権項目における達成の道程には何が大切かを考えることができる。 			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践にあたり、朝日新聞社の記者・遠藤美波氏より資料等に関する情報提供をいただきました。 			

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・本校グローバルコースの教員を中心に多くの先生方に授業を参観していただきました。今後、学校全体でグローバル教育を推進できるように、グローバルコース担当以外の先生方と連携していく必要があると考えます。
- ・グローバルの特色を持つ他の市立高校と合同して、今回のような参加型の授業の実践を行っていきたいと考えます。

【自己評価】

12. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を中心にキルギス社会（中央アジア）の風習とされている「誘拐婚」を扱いましたが、誘拐婚は様々な社会的・文化的・経済的要因から今日まで続く婚姻形態で、その複雑さを生徒にいかに実感させるかに苦慮しました。 ・日ごろから積極的に発言するクラスで授業実践をしましたが、特にロールプレイやホワイトボードにおけるまとめの際に、一見活発に見えるが本質的な議論がなされない「活動あって学びなし」の授業にならないように苦労しました。 ・「誘拐婚」を事例に考えたあと、ジェンダー問題を身近に「我がこと」として考えさせるかに苦労しました。
13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの実践後に、生徒にロールを演じた感想を聞きロールプレイを振り返る時間を設けるべきでした。 ・ロールプレイ後、すぐに「人権擁護と文化相対主義（伝統・文化）のジレンマ」に考えさせるのではなく、まずは「誘拐婚にともなう問題の解決策」について考えさせるよう改善しました。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にキルギスについて詳細に紹介・説明していたため、生徒はキルギス国内の誘拐婚問題について真剣に考え、ロールを演じ、グループ内で意見交換ができていました。 ・「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化の尊重）」のジレンマという「答えのない問い」に対して果敢に取り組み、広い視野で問題解決策を考え、相対的に思考・表現できる力を身につけさせることができたと考えます。 ・2020年のジェンダー・ギャップ指数において、日本がキルギスよりもジェンダー格差が大きいことを知り、日本のジェンダー問題の深刻さを理解し、その解決策への道程を生徒は思考することができました。
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<p>ワークシートの生徒記入例</p> <p>課題1 に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「今まで選択肢の一つである文化を優先すべきか、全ての人々の平等や人権を優先すべきか」、「誘拐婚によって人生のある過程で苦痛を感じるのか、人生を振り返ってみて幸せとを感じるのか」、「伝統・文化はその地域の人々が必要としているから続くものであるが、果たしてそれは苦痛を感じている人がいてまで必要なものなのか」等のジレンマがあると思う。（女子） ○「人権擁護」の考え方から、誘拐による結婚の強要は女性のその後の人生を無視する形で行われるため人権侵害で許されないことだが、「文化相対主義」の立

場からは社会に根差した一つの文化として一概に否定できず、ジレンマが生じる。(男子)

- 「国の発展を優先するか、人権を優先するか」「男の人の権利を尊重するか、女の人の権利を尊重するか」「親の幸せを優先するか、子どもの幸せを優先するか」ジレンマがある。(女子)

課題2 に対して

- インターネットなどの情報を鵜呑みにするのではなく、問題を抱えている様々な立場の人の思いを考える必要がある。物事を多角的な視点で捉えてその問題の本質を正確に捉えるためにも、自身の立場を超えて考えることが必要だ。(女子)
- 必ずしも全ての人や社会をすぐに良くすることはできず、多少なりとも苦しい思いをする人が出てきてしまうと思う。なので、このような人を置き去りにするのではなく、少しでも幸せに近づけられるような何らかの対策が必要になると思う。(男子)
- 少しずつみんなが譲り合い尊重し合って、ルールや罰則をつくる必要がある。まずは様々な立場の人たちが話し合うところから始めるべきだ。(女子)

課題3 に対して

- 初めは誘拐婚は女性のことを考えていないから無くすべきだと思っていたけれども、時代が変わるように自然に文化としてよりよい姿になっていけるような世界をつくったり考え方を持つことも良いと思った。排除よりも変化という「無理に形を変えない」という発想に出会うことができた。(女子)

○話し合うことは難しいことを実感した。今回は役に合わせて意見を主張したので、グループ内での話し合いが成立したけれども、これがもし現実の自分に関わることであれば、かなりヒートアップすると思うし、話せば話すほど妥協できなくなったと思う。自分の意見を持つことは必要だけれども、反対意見の人とも、わかり合う努力をしないと解決できないと思った。(女子)

○たった5~6人のグループで討議をただけでも意見は細かく分かれてしまった。これが世界規模で様々な考えの人々が集まる中での話し合いだと考えると、答えを出していくのは本当に難しいんだなと実感した。小さな問題でも、大きな問題でも、相手を否定せず受け入れて、理解していこうという姿勢が大切だと思った。

(男子)

16. 授業者による自由記述	<p>キルギスを実際に訪れるまで授業実践内容は全くの白紙で、今後自分自身がどのような方向性で授業をするのか見通しは立っていませんでした。しかし、キルギスの美しく壮大な自然や現地の魅力あふれる住民、浚渫とした青年海外協力隊員との交流を通じて多くのインスピレーションを得ることができ、授業に対する不安は現地訪問であつという間になくなりました。</p> <p>キルギスには数千年と連綿と続いてきた遊牧の伝統、ソ連時代へのノスタルジー、JICAによる一村一品活動を通じた経済発展への奮闘など、至る所に教材としての示唆にあふれていました。その中で特にキルギス（中央アジア）の「風習」とされている誘拐婚に対しては、当初は人道面からクリティカル（批判的）な眼差しで、後に現地の人に取材を進めていく中では複眼的な見地で関心を持ちました。そして、「キルギス社会の実情」や「ジェンダー問題」、さらには「伝統・文化の在り方」までを含めて広い視野で生徒に思考力を身につけられると思ひ、誘拐婚を事例にこのテーマで授業をしようと決心しました。</p> <p>授業案の作製及び授業実践に際しまして、橋詰典明校長先生や研修仲間をはじめ、多くの方々からご助言・ご協力をいただきました。この場をかりて御礼申し上げます。</p>
----------------	---

参考資料：

- ・北村光二「文化相対主義の困難と「文化の共生」の可能性」、『文化共生学研究』第1号、29 - 33 項
2003年. 3月
- ・林典子『キルギスの誘拐結婚』、日経ナショナルジオグラフィック社、2014年
- ・Think the Earth『未来を変える目標 SDGs アイディアブック』、瞬報写真印刷株式会社、2018年
- ・The World Economic Forum 「Global Gender Gap Report 2020」
http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf



キルギス共和国 (Kyrgyz Republic)

- ▶面積：198,500km² (日本の約半分)
- ▶人口：約590万人
- ▶首都：ビシュケク
- ▶気候：温帯 (砂漠は存在せず)
- ▶地理：国土の40%は 3000mを越す山岳国

キルギス共和国 (Kyrgyz Republic)

- ▶産業：農業、牧畜、鉱業(金など)
- ▶民族：キルギス人が73.3%、ウズベク人が14.7%、ロシア人が5.6%、ドゥンガン人1.1%
- ▶宗教：イスラム教が70%、ギリシア正教会が20% 等
- ▶独自の文化：遊牧文化、マナス神話、誘拐結婚

誘拐婚 (誘拐結婚) とは？

- ・キルギス語で「アラ・カチュー」＝「奪って去る」
- ・若い男性たちが友人たちと共に女性を説得し、または力づくで誘拐し、男性の家族の待つ家まで連れ結婚を強要する、中央アジアの「伝統」
- ・キルギスの女性の 約30%～45% は誘拐婚で結婚しているとされる
- ・1994年に法律で禁止

※しかし、警察も裁判官も単なる「家族間の問題」として、犯罪としてほとんど扱わない

誘拐婚 (誘拐結婚) のプロセス

- ステップ① 花婿の家庭で結婚式の準備
- ステップ② 花婿とその仲間が「花嫁」を奪う

誘拐直後の「花嫁」

誘拐婚（誘拐結婚）のプロセス

- ステップ③ 花婿の家庭の女性が「花嫁」に結婚を迫る
- ステップ④ 花婿の家族が花嫁の家族に結婚の事後承諾を得る



誘拐直後、花婿の親族の女性から花嫁の象徴である純白のスカーフを無理やり被せられる。

誘拐婚（誘拐結婚）のプロセス

- ステップ⑤ 正式な結婚の手順を行い、夫婦になる
(誘拐後、8割以上の女性が結婚を承諾している)



誘拐婚で結婚した夫婦

誘拐婚（誘拐結婚）はなぜ行われる？

- ① 貧困による結婚の資金難
- ② 女性の権利の低さ
- ③ 社会的抑圧
⇒男性は親からの結婚圧力が強く、女性は伝統として年配の人々から誘拐婚による結婚を望まれる傾向。
- ④ 駆け落ちとしての誘拐婚
※誘拐婚には、男女の合意の上での駆け落ち的要素を含む場合もある。

誘拐婚（誘拐結婚）の動向






1999年 法律上禁止に

2018年5月 誘拐婚の被害者が誘拐犯によって警察署内で刺殺される事件が発生

2018年6月 上の事件を受けて、学生を含む1000人以上による誘拐婚への抗議デモが起こる

SDGs ってなんだったっけ??



- ・2015年の国連サミットで採択されたもので、よりよい世界を目指す世界目標。
- ・までに持続可能な世界を目指す。
- ・のゴール・169のターゲットから構成される。
- ・スローガンは「 (Leave no one behind)」。
- ・のみならず、自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なもの。

SDGs をグループ分け

グループ分けのルール

- ① 目標をよく読んで、5つのグループに分ける。
- ② 意味のわからないもの、分けられないものはよけて置く。
- ③ 他の班の分け方をチェック。





ジェンダー平等を実現しよう

5 ジェンダー平等を実現しよう

- あらゆる場所における全ての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、全ての女性及び女兒に対する公的・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
※ SDG s 169のターゲットより抜粋

文化相対主義とは何か？

- _____は優劣で比べるものではなく_____である。
- _____があり、一つの文化の価値や認識の基準を別の文化に単純に当てはめることはできない。
- 自身の文化を相対的に把握したうえで、異文化と相手側の価値観をとらえ、_____しようとする。

本日のテーマ

「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」のジレンマを理解し、ジェンダー問題の克服において何ができるかを考える。

※ジレンマ...二つの事の板ばさみになって、どちらとも決めかねる状態。

誘拐婚の厳罰化についての会議

- ①キルギス政府 (オムル氏) ☆司会役
- ②国際人権委員会 (アルマズ氏)
- ③キルギスの女学生 (ジベック氏)
- ④エジエ(女性年配者) (アヤトカン氏)
- ⑤家族の長 (アディル氏)
- ⑥文化人類学者 (ディエワ氏)

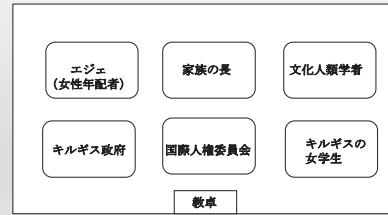
課題説明

キルギス国内で誘拐犯によって女学生が殺されてしまった事件をきっかけに、政府は誘拐婚の厳罰化について検討することにした（※現在のキルギスでは誘拐婚に対する刑罰は羊の窃盗と同様である）。国際人権委員会や多くのキルギスの若い女性たちは個の尊厳やジェンダー平等の観点から厳罰化への賛成の声が上がった。

一方で、文化人類学者やキルギスの大家族の長たちは、キルギスの長い伝統の中で培われた伝統を法律の厳格化で規制する必要はないと、反対意見を述べている。そこで、政府は国民と有識者から広く意見を聴取すべく、会議を開催することにした。

① 作戦会議①（7分）

☆同じ役柄で集まり、会議での方向性を話し合う。



② 本会議（15分）

☆政府 司会 の元、ロールプレイカードの情報を交換しながら会議を進行する。

※5人グループの所は、国際人権委員会が司会。

- ・ワークシートにそれぞれの立場の人の主張をメモしよう！



③ 作戦会議②（5分）

☆同じ役柄で再び集まり、会議での方向性を話し合う。



④ 再び 本会議（10分）

☆政府 司会 の元、ロールプレイカードの情報を交換しながら会議を進行する。

※5人グループの所は、国際人権委員会が司会。

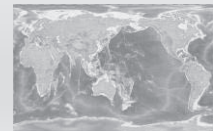
- ・ワークシートにそれぞれの立場の人の主張をメモしよう！



⑤ グループで議論（10分）

役から離れ、課題の整理と「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化）」のジレンマについてホワイトボードにまとめる。

- ・10分後に 司会役 が発表。



誘拐婚（誘拐結婚）は 「文化・伝統」？

当初、誘拐結婚は女性に対する人権侵害だと考えていた。しかし、取材の過程で、誘拐結婚後に幸せに暮らしている女性たちが数多くいることを知り、誘拐結婚は婚姻の一つの形であり、キルギス社会に根付いた文化、「慣習」なのではないかと思うようになっていった。

※林 典子氏 『キルギスの誘拐結婚』あとがき より

誘拐婚（誘拐結婚）で結婚した女性



誘拐された直後は辛くて泣いてばかりいました。しかし、今は多くの子どもたちに恵まれて幸せです。

シヨルブラック村の女性

添付資料Ⅰ：課題説明

キルギス国内で誘拐犯によって女学生が殺されてしまった事件をきっかけに、政府は誘拐婚の厳罰化について検討することにした（※現在のキルギスでは誘拐婚に対する刑罰は羊の窃盗と同様である）。国際人権委員会や多くのキルギスの若い女性たちは個の尊厳やジェンダー平等の観点から厳罰化への賛成の声が上がった。一方で、文化人類学者やキルギスの大家族の長たちは、キルギスの長い伝統の中で培われた伝統を法律の厳格化で規制する必要はないと、反対意見を述べている。そこで、政府は国民と有識者から広く意見を聴取すべく、会議を開催することにした。

添付資料Ⅱ：ロールプレイカード役割カード

①オムル氏（キルギス政府）

政府としては、国内の若い女性たちの声や国際社会の圧力もあるので誘拐婚の厳罰化を検討せざるを得なくなった。しかし一方、国内では誘拐婚は単なる「家族間の問題」であり警察には介入してほしくなく、厳罰化に反対する声も上がっていることも考慮しなければと考えている。そこで、政府としては 国内外の意見をまとめて、キルギスの「慣習」となっている 誘拐婚の厳罰化について検討 したい。

②アルマズ氏（国際人権委員会）

誘拐婚厳罰化に反対する人たちは、「誘拐婚はキルギスの伝統・文化なので、誘拐婚を他の価値観で一方的に批判するのはおかしい」と主張する。しかし、それは誘拐婚を「伝統・文化」という盾に取った明らかな女性の人権侵害に他ならない。SDGsでも「ジェンダーの平等」が掲げられている今こそ、国際社会と協力して 誘拐婚の風習は根絶すべき だ。そのためには、女性の権利を著しく侵害している誘拐婚を、先ずは法律で厳罰化していく必要がある だろう。

③ジベック氏（キルギスの女学生）

自分の母親世代の多くは誘拐婚で結婚したが、今は幸せだという。しかし、私たちは 自由に恋愛をして結婚をすることを強く望む。大学在学中や婚約者がいる人さえ、一方的にキルギス人男性に誘拐され無理やり結婚させられることもある。これは明らかに、個の尊厳や教育の機会を奪うことに他ならない。親たちは結婚をして子どもを残すことこそが一番の幸せだというが、大学で学問を学んだり社会進出して仕事にやりがいを感じることも幸せの一つだし、そもそも結婚しない自由も私たちにはある。私たちは 誘拐結婚に反対だし、厳罰化には賛成 である。

④アヤトカン氏（エジェ【女性年配者】）

私は 30 年前に誘拐婚で結婚した。誘拐された当初はなかなか結婚を受け入れることができず、一人で泣いていたこともあった。しかし、今はたくさん子どもたちに恵まれ、結果的に結婚をして良かったと考えられるようになった。私には未婚の息子が二人いる。息子の将来のことを考えると、必ずしも 誘拐婚の厳罰化には賛成できない。

⑤アディル氏（家族の長）

結婚に大金が必要なキルギスでは、貧しい男性の立場を考えるとあまり資金を要しない誘拐婚は必要である。たしかに今の若い娘たちは辛い思いをする誘拐婚には反対だというが、誘拐婚後に幸せに暮らしている女性がキルギス国内にたくさんいるのではないか。子孫をたくさん残し、多くの子どもたちに囲まれることこそが一番の幸せなのだから、結婚の形態は他人にあれこれ言われるいわれはない。そもそも、誘拐婚を批判する先進国は未婚率が高く、少子高齢化が深刻ではないか。我々は、誘拐婚は「家族間の問題」だと認識しているし、法律で厳罰化する必要はない と考える。

⑥ディエワ氏（文化人類学者）

誘拐婚は、キルギス社会の実情に合う形で維持・継承された婚姻の一つの形態で、キルギス社会に根付いた文化、慣習である。したがって、現地社会の実情を無視し、一方的に欧米の価値観で誘拐婚は否定できない。たしかに誘拐婚には、人権侵害の批判は避けられない側面はあるかもしれない。しかし、厳罰化するのではなく、誘拐婚によって著しい被害を受けた人を、今ある法律をしっかりと運用して保護する仕組みこそが必要だ。

Global Gender Gap Report 2020

East Asia and the Pacific

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
New Zealand	1	6	0.799
Philippines	2	16	0.781
Lao PDR	3	43	0.731
Australia	4	44	0.731
Singapore	5	54	0.724
Thailand	6	75	0.708
Mongolia	7	79	0.706
Indonesia	8	85	0.700
Viet Nam	9	87	0.700
Cambodia	10	89	0.694
Brunei Darussalam	11	95	0.686
Fiji	12	103	0.678
Malaysia	13	104	0.677
China	14	106	0.676
Korea, Rep.	15	108	0.672
Myanmar	16	114	0.665
Timor-Leste	17	117	0.662
Japan	18	121	0.652
Vanuatu*	19	126	0.638
Papua New Guinea*	20	127	0.635

Latin America and the Caribbean

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Nicaragua	1	5	0.804
Costa Rica	2	13	0.782
Colombia	3	22	0.758
Trinidad and Tobago*	4	24	0.756
Mexico	5	25	0.754
Barbados	6	28	0.749
Argentina	7	30	0.746
Cuba	8	31	0.746
Uruguay	9	37	0.737
Jamaica	10	41	0.735
Bolivia	11	42	0.734
Panama	12	46	0.730
Ecuador	13	48	0.729
Chile	14	57	0.723
Honduras	15	58	0.722
Bahamas	16	61	0.720
Peru	17	66	0.714
Venezuela	18	67	0.713
Suriname	19	77	0.707
El Salvador	20	80	0.706
Dominican Republic	21	86	0.700
Brazil	22	92	0.691
Paraguay	23	100	0.683
Bolivia	24	110	0.671
Guatemala	25	113	0.666

Eastern Europe and Central Asia

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Latvia	1	11	0.785
Albania	2	20	0.769
Moldova	3	23	0.757
Estonia	4	26	0.751
Belarus	5	29	0.746
Lithuania	6	33	0.745
Slovenia	7	36	0.743
Serbia	8	39	0.736
Poland	9	40	0.736
Bulgaria	10	49	0.727
Romania	11	55	0.724
Ukraine	12	59	0.721
Croatia	13	60	0.720
Slovak Republic	14	63	0.718
Bosnia and Herzegovina	15	69	0.712
North Macedonia	16	70	0.711
Montenegro	17	71	0.710
Kazakhstan	18	72	0.710
Georgia	19	74	0.708
Czech Republic	20	78	0.706
Russian Federation	21	81	0.706
Kyrgyz Republic	22	93	0.689
Azerbaijan	23	94	0.687
Armenia	24	98	0.684
Hungary	25	105	0.677
Tajikistan	26	137	0.626

Middle East and North Africa

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Israel	1	64	0.718
United Arab Emirates	2	120	0.655
Kuwait	3	122	0.650
Tunisia	4	124	0.644
Turkey	5	130	0.635
Algeria	6	132	0.634
Bahrain	7	133	0.629
Egypt	8	134	0.629
Qatar	9	135	0.629
Jordan	10	138	0.623
Mauritania	11	141	0.614
Morocco	12	143	0.605
Oman	13	144	0.602
Lebanon	14	145	0.599
Saudi Arabia	15	146	0.599
Iran, Islamic Rep.	16	148	0.584
Syria	17	150	0.567
Iraq	18	152	0.530
Yemen	19	153	0.494

South Asia

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Bangladesh	1	50	0.726
Nepal	2	101	0.680
Sri Lanka	3	102	0.680
India	4	112	0.668
Maldives	5	123	0.646
Bhutan	6	131	0.635
Pakistan	7	151	0.564

Sub-Saharan Africa

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Rwanda	1	9	0.791
Namibia	2	12	0.784
South Africa	3	17	0.780
Burundi	4	32	0.745
Zambia*	5	45	0.731
Zimbabwe	6	47	0.730
Cape Verde	7	52	0.725
Mozambique	8	56	0.723
Madagascar	9	62	0.719
Uganda	10	65	0.717
Tanzania	11	68	0.713
Botswana	12	73	0.709
Ethiopia	13	82	0.705
Eswatini	14	83	0.703
Lesotho	15	88	0.695
Cameroon	16	96	0.686
Liberia	17	97	0.685
Senegal	18	99	0.684
Ghana	19	107	0.673
Kenya	20	109	0.671
Sierra Leone	21	111	0.668
Mauritius	22	115	0.665
Malawi	23	116	0.664
Angola	24	118	0.660
Benin	25	119	0.658
Guinea	26	125	0.642
Nigeria	27	128	0.635
Burkina Faso	28	129	0.635
Gambia, The	29	136	0.628
Mali	30	139	0.621
Togo	31	140	0.615
Côte d'Ivoire	32	142	0.606
Chad	33	147	0.596
Congo, Dem Rep.	34	149	0.578

Western Europe and North America

Country	Rank		Score
	Regional	Global	
Iceland	1	1	0.877
Norway	2	2	0.842
Finland	3	3	0.832
Sweden	4	4	0.820
Ireland	5	7	0.798
Spain	6	8	0.795
Germany	7	10	0.787
Denmark	8	14	0.782
France	9	15	0.781
Switzerland	10	18	0.779
Canada	11	19	0.772
United Kingdom	12	21	0.767
Belgium	13	27	0.750
Austria	14	34	0.744
Portugal	15	35	0.744
Netherlands	16	38	0.736
Luxembourg	17	51	0.725
United States	18	53	0.724
Italy	19	76	0.707
Greece	20	84	0.701
Malta	21	90	0.693
Cyprus	22	91	0.692

* New countries in 2020

【参考】

- ・The World Economic Forum「Global Gender Gap Report 2020」
http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf

ワークシート記入例

課題1 国際理解をするうえで「人権擁護」と「文化相対主義（伝統・文化の尊重）」は大事なキーワードである。しかし、誘拐婚の事例をみると「人権擁護」と「文化相対主義」にジレンマがあることがわかる。ロールプレイ上のそれぞれの立場に立ち、誘拐婚を事例にそのジレンマとはどのようなものか、まとめてみよう。

誘拐婚は一方的に結婚を迫られ個の自由を奪われる女学生や、ジェンダーの平等を主張する国際人権委員
会などからは人権擁護の視点から到底受け入れられない。しかし、多くの子どもに恵まれる幸せを重視する
キルギスの家族の長や、「人権擁護」という欧米の価値観を現地の実情を無視して一方的に押し付けることを
批判する文化人類学者等の立場に立つと、誘拐婚は「文化」「伝統」として認められ、ここにジレンマが
生じる。

課題2 課題1を踏まえ、そのジレンマを克服して、これから皆さんが活躍する国際社会をより良くするためには何が必要か、まとめてみよう。

私は、SDGsでも掲げられている「ジェンダー平等」などの人権擁護の考えも、文化相対主義の価値観も
共に大切だと考える。それ故、伝統や文化を一つの価値基準のみで批判・判断するのではなく、それらが
生じた社会的・文化的背景を理解していく試みが欠かせないと思う。それと同時に、「伝統・文化」の名のもとに抑圧されている人々の立場に寄り添い、SDGsの達成にむけて必要なことを常に意識・行動していくことが大切だと考える。

課題3 ロールプレイを通じての「気づき」や「学び」、「新たに疑問に思ったこと」、「さらに深めてみたいと思ったこと」等をまとめてみよう。

・世界の問題に目を向ける際には、一つの価値観を独善的に押し付けるのではなく、様々な人の立場にたって、解決する必要があると感じた。そのためには、やはり世界に目を向け勉強し続けることが大切だと思う。
・最初は誘拐婚は凶悪な犯罪だと考えていたが、それは根深い文化で一概に批判できないと思った。
・様々な立場や文化的な背景があるのだから、SDGsの目標達成はなかなか難しいのだなと感じた。
・「本当の幸せは何なのだろうか？」という疑問が生じた。
・「人権擁護」と「文化相対主義」のジレンマは、他にどのような事例があるのか？